

監事に就任して

株式会社東北地質 代表取締役

白鳥 文彦



はじめに

令和元年5月から、(一社)東北地質調査業協会監事を仰せつかりました株式会社東北地質の白鳥です。弊社は、平成24年10月に他界しました先代白鳥文雄により創立した地質調査を主業務とする会社です。

東日本大震災から8年目を迎えた現在は、地域によって差はあるものの、防潮堤やインフラ、住環境の整備は進み、復興創生期間も来年が最終年度となります。そんな中で、今年10月の台風19号は、東北地方に広範囲にわたる甚大な被害をもたらしました。今後も、さらなる自然災害の発生が想定されます。このような中で、私共が携わる地質調査業の果たす役割はさらに重要になるものと認識しております。大変微力ではありますが、本協会の発展に貢献できますよう尽力いたしますので、協会の皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

出生～小学・中学生時代

私は、昭和32年2月に宮城県大衡村に生まれ、幼少期から小学・中学生までは仙台市北部の団地を転々していました。引っ越しが多かったということです。2～3年の間隔で、半径5km圏内での転居だったため学校が変わることありませんでした。当時、父親はすでにボーリング技術者として地質調査に関わっており、収入が増えるごとに借家のグレードが上がっていったことを記憶しております。仙台市北部の丘陵地を居住地としたのは、地質調査技士として納得のいくところではあります。小学校・中学校時代は体を動かすことを好み、小学校ではサッカー、中学校では野球部に属していました。特にボールゲームは好きで、ボーリ

ング、テニス等何でも行いました。下手ながらゴルフは40年近いキャリアとなります。

高校・大学時代

学生時代は、自分の趣味嗜好の形成時期であったように思えます。高校時には運動部には属さず、写真部、その後映画研究会なるサークルを立ち上げ、名画座、青葉劇場、東北劇場など映画館には良く通ったことが思い出されます。当時映画館は一日に繰り返し鑑賞することができ、2本立て3本立てが普通でした。(若いころは時間が十分にありました。)

そんなわけで、当然小遣いだけでは足りず、アルバイトもしました。新聞配達とボーリングの助手です。(この当時から業界に関わっていたことになるのでしょうか……)

ボーリングの仕事をかじった後、大学は父親の仕事とは関係のない専攻をしました。(必然でした。当時、3Kに近いイメージがあり大変な仕事だという認識でした。)

このようなわけで、大学では理数と工業の教員資格取得のできる教職課程を選択しました。ただし、大学時代も休み期間は友人を誘いボーリングの助手のアルバイトは行っていました。当時は趣味に音響や車も加わり、アルバイトは欠かせないものとなっていました。

このために、自分の意志に反してボーリングに関するスキルは徐々に上がっていきました。

大学生活は大変有意義で、友人形成の場でもありました。今でも年に一度ではありますが同じ学部の男子、女子が集まり応物6人会なる飲み会が行われます。子供が小さい頃は持ち回りで各家庭に集

まり、近況報告と子供の成長を見守る場でもありました。子供たちは、ほぼ独立し、私をはじめ、それぞれがジジ、ババの路を邁進しています。

入社～現在（変遷）

昭和57年4月、諸事情により弊社、株式会社東北地質へ就職しました。

入社後、来年で38年目を迎えますが、これまでを振り返りますと、その時々々の社会情勢に応じた、会社の変遷がありました。

80年代半ばには、長尺ボーリングや温泉ボーリングの依頼も多く、そのために設備投資や技術者の実技教育を行い、ワイヤーラインも実施していました。80年代後半から90年代半ばまではバブルの時代でもあり業績もよく活況を呈していました。社内旅行で海外へも行けた良き時代でもありました。

その後は、神戸淡路大震災を経て長い不況に陥ります。2001年には国の財政再建に伴う公共事業の削減が始まり、会社存続が危うくなる厳しい時期でもありました。このような環境の中で土壤汚染・地下水汚染に関連する業務や地中熱等の環境に関連する業務など、公共事業以外の仕事を視野に入れながら業務展開を図らなければならない混迷の時期が続いていました。そのような状況を一変させたのが東日本大震災ということになるのでしょうか。

今年も台風豪雨による甚大な災害が発生しました。近年は、地震災害や豪雨災害などこれまでにない頻度と規模で発生しています。

地質調査業に係るものとして、社会資本の整備・管理を含めて安全・安心な生活をまもるためにも微力ではありますが貢献していければと思います。

いま想うこと1

昨今の建設業では、「i-Construction」という言葉をよく耳にするようになりました。

建築・土木業界というと昭和の時代から3K（キツイ・汚い・危険）というイメージが強く、その脱却を図るべく政策とあ

ります。関連業務である地質調査業もまたしかりで、長年ボーリングオペレーター不足が言われております。

このような中で、地質調査の根幹をなす、ボーリング技術者の労働環境が取り残されることがないように、「新3K（給与が高い、休暇がとれる、希望がもてる）」というイメージアップを図れるよう努めていきたいと思っておりますし、願っております。昨今、働き方改革が叫ばれ、私たちの業界も、労働環境の改善は必須となりました。しかしながら、地質調査の現場には他業種にない特殊性があり、よりよい方法を求め努力を続けるところです。

いま想うこと2

若手ボーリング技術者の育成と現役を終えようとする老練な技術者の処遇を考える中で、老練な技術者が若手技術者の育成の要素として重要な役割を果たしてくれるものと考えております。

弊社にも若くて意欲のあるボーリングオペレーターがいます。仕事に意欲的で、向上心も見られます。仕事は任せています。残すところは、経験値となります。

若手技術者の育成のポイントとして、もっとも重要と考えるのが、信頼できる先輩、指導者の存在であり、すなわち「任せて、フォローする」という体制ではないかと思っております。

当然、指導的立場の方にも、仕事への向上心、ミスをカバーできるスキル、迷いのある時に有益な助言を提供できるなど、まさに「ボーリングマイスター」レベルの技術指導力も必要と思っております。このような体制ができないかと思いついて今日この頃です。

おわりに

最後に、とりとめのない文章となってしまう、恥ずかしい限りではございますが、ご拝読いただきありがとうございます。これからの地質調査業の更なる発展に貢献できますよう努める所存でございますので、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。